

(3) 評価の観点や評価規準を示したシラバス



ポイント 3

評価の観点や評価規準をシラバスに具体的に示すことで、到達目標がより明確に生徒に意識されます。

評価の観点や、教師間の共通理解を図った上で作成した評価規準を示ることにより、指導方針を明確にすることができます。また、生徒には到達目標をより明確に意識させることができます。

次の例は、評価の観点を示したシラバスの例です。

評価の観点を示したシラバス

簿記			
5単位 教科書「新簿記」○○社			
検定試験の取り組み 北関東簿記実務検定試験2級 全商簿記実務検定試験2級			
【学習内容の概要】 経営活動に伴う取引を正確、明瞭に記録・計算・整理するための知識と技術を習得し、簿記の基本原則を理解するとともに、合理的な会計処理を行う能力と態度を身に付ける。			
【進路実現に向けての学習の指針】 簿記検定上級試験の合格に向けて、基本的・基礎的な簿記の能力を身に付ける。			
（評価の観点）			
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身に付けている。	企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解している。
【評価方法】 ・定期テストなどの筆記試験や小テスト。 ・学習活動。 以上を総合的に判断し、評価します。			
【資格取得に向けて】 ・北関東簿記実務検定2級、全国商業高等学校協会主催簿記実務検定2級を受験します。この検定は文部科学省検定済教科書の範囲内から出題されるのが前提となりますので、教科書の内容を十分に理解し問題演習を行うことが大切です。 ・検定試験で、より上級の資格を取得することで、自分の志望している進路が実現しやすくなります。簿記はその基礎となる科目ですので、予習・復習を十分に行いましょう。			

次の例は、評価規準を示したシラバスの例です。

評価規準を示したシラバス

工業技術基礎

単位数	3 単位	担当者	
学習到達目標 工業に関する基礎的技術を、実験・実習によって体験し、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解するとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付けます。			

単元の区分、学習事項		学習のねらい・学習事項
1 人 と 技 術 と 環 境	(1)人と技術	産業社会や職業生活についての調査や見学を通して、科学技術の発達と人間の関わりや科学技術のもたらす真の豊かさについて学習するとともに、工業技術者としての倫理観や勤労観・職業観についても考えます。また、関連する職業資格及び、工業所有権についても学習します。
	(2)環境に配慮した技術	環境測定や資源のリサイクルなどの実際の作業を通して、環境保全についての関心を高めます。地球環境の保全に果たしている工業技術についての身近な事例をもとに、その意義や必要性について考えるとともに、地球環境保全に向けて主体的に行動することの重要性を学習します。

評価規準

本科目の学習形態については、「人と技術と環境」では、調査・分析が中心となります。また、「基礎的な加工技術」と「基礎的な生産技術」を組み合わせた学習では、作品製作と実験・測定が中心となります。各学習形態に対応した評価規準の例を次のように示します。

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
調査・分析	調査目的を理解し、積極的に行動しようとしている。	調査結果を分析・整理している。	調査結果を分かりやすくまとめ、他に伝達している。	調査の意義とその結果の価値を正當に評価している。
作品製作	作品製作の意義を理解し、積極的に取り組もうとしている。	進行計画を立てている。また、状況を判断して計画を修正している。	製作を通して技能が上達し、作品に反映されている。	必要な前提知識を持っている。新たな知識を得ている。
実験・測定	実験・測定の意義を理解し、積極的に取り組もうとしている。	正確な結果を得る工夫をしている。結果を客観的に評価している。	正確に実験・測定をしている。結果を正しく他に伝達している。	実験・測定の原理を理解している。